

『第13回全国シェルターシンポジウム2010 in くるめ』

2010年11月20日・21日福岡県久留米市で『第13回全国シェルターシンポジウム2010 in くるめ』が開催されました。

今回参加した会員からの報告をお届けします。

「つながれ ひろがれ DV根絶ネット！」を大会スローガンとして、開催地「久留米市」に約2000名が集った。1日目の会場の石橋文化センターホールはほぼ満席で、参加者の熱気で溢れた。基調講演はランディ・バンクロフト氏による「DV加害者の実体を知る」。彼は家族問題専門家。20年にわたり加害者介入プログラム及び被害者家族への支援を行っている。米国で最初に設立された加害者用のカウンセリング・プログラム（イマージ）の元共同代表。裁判官、司法関係、児童相談所の職員、セラピスト、警察官を対象として、講演や研修を実施している。最近では、加害者への法的手段やカウンセリングの介入、DVにさらされた子どもたちへの影響といったテーマに焦点を当てた研修や執筆活動をしている。日本には彼の著作の愛読者、彼の信奉者は多い。

氏は、「DVは現代社会に蔓延している社会問題だが、行政機関、法執行機関、裁判所など、公の機関がDVの正確な情報を持っていない。暴力的な男性たち、被害者、子どもたちに通説や誤解に基づいた形でしか対応していない」と現状を述べた後、DVの主要原因を①多くの男性が男性優位の意識と特権意識を持っていること、②暴力を社会が容認していることと分析。我々が、まずしなければならないことは加害者への法的罰則を与えることと女性への暴力は許さないという意識を行政や専門家をはじめ社会全体が持つことと強調。そして被害者を、尊厳を持って支援していくことと子どもたちが、暴力のない家庭で生きる権利を守ることと付け加えた。

続くシンポジウムは「加害者責任のあり方を考える～加害者対策の現状と課題と今後の方向性～」と題して、お茶の水女子大学理事・副学長の戒能民江氏をコーディネーター、バンクロフト氏と韓国・東明大学教授の呉英蘭氏、東北大学大学院教授沼崎一郎氏がパネリストで行われた。呉英蘭氏は「韓国における加害者対策の現状と課題」について、現行加害者処罰について、警察介入段階の加害者対応は被害者通報による警察が介入した時点でとる臨時処置が家庭からの撤去と被害者の住所・職場からの100メートル接近禁止命

令が可能だが警察、検事、裁判所を通じて判断されるので実行率は高くない。検察介入段階では家庭暴力事件を家庭保護事件か刑事事件かに判断することまた起訴するか相談つき起訴猶予をするかを判断する。相談プログラムに参加すると起訴猶予となるので起訴率が低下している。加害者プログラム受講後、6ヶ月間は効果が見られるがその後再暴力化が見られ、今後の課題となっている、などと述べた。

沼崎一郎氏は「DV加害者対策を考えるー暴力を選んだ責任、暴力を選ばせない責任ー」として、「加害者には暴力を選んだ責任ある。暴力を選ばせた責任は社会にある。被害者と子供には何の責任もない。」と明快に示し、被害者の安全確保、権利回復には積極的逮捕策の実施が欠かせないと断言した。

交流会場には全国から元気な仲間が集い、日ごろの活動を発表しあった。翌日は午前と午後それぞれ9分科会で熱心に学習をし、エールピアス久留米ロビーで久留米市長により全国初の「ドメスティック・バイオレンスのないまちづくり宣言」が読み上げられた。「大会アピール」を拍手で確認して熱気溢れる第13回全国シェルターシンポジウムは終了した。

高月由起枝

◆ストックハウス運営資金を募っています◆

ストックハウスは、皆さまから寄せられる寄付金とカンパによって維持、運営されています。ストックハウス基金は、被害当事者と子どもたちへの新しい下着や学用品などの購入費として援助をしています。皆さまの温かいお気持ちで、ストックハウスを支えてください。物品の提供や運営資金へのお振込みをお願いいたします。提供いただける物がありましたら、事務局またはお知り合いの運営委員までお知らせください。

1口 1,000円 (何口でも)

郵便振替口座 01340-9-42005

DV防止サポートシステムをつなぐ会

★ 自立の時に必要な物品を集めています ★

★ 新品またはそれに近いものでお願いします ★

・家電製品 (冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、掃除機、テレビ他) ・日用雑貨 ・家具 (食器、時計、テーブル、調理器具他) ・子どもの物 (学校の必需品ーバッグ、学用品、おもちゃ他) ・消耗品 (洗剤、洗面用具、生理用品、シャンプー他) ・衣類 (Tシャツなど、クリーニング済のもの) ・下着 (新品)